

2014年2月1日

日本光電、麻酔器事業についてアコマ社等と業務提携

日本光電工業(株)はこのほど、ドイツの医療機器メーカーの Heinen+Lowenstein GmbH & Co. KG (ハイネン・レーヴェンシュタイン、H+L 社)、国内医療機器メーカーのアコマ医科工業(株) (アコマ社) との間で、麻酔器の開発、販売について業務提携を締結した。

日本光電は長期ビジョンの下、重要テーマとして治療機器事業の拡大を目指している。特にコア事業のひとつである周術期分野においては、生体情報モニタの国内トップメーカーとして生体情報管理システムを開発し、顧客満足度の高いソリューションの提供に取り組んでいる。

今後、生体情報モニタと麻酔器のより緊密な連携による周術期管理システムの構築が必須となることが予想されるため、ヨーロッパを中心に高い納入実績を持つ H+L 社の麻酔器の国内導入を行う。また、高品質な自社製品を主に国内で販売しているアコマ社と販売提携を行い、H+L 社製品の国内での販売・サポート体制を構築する。アコマ社と共同で国内販売網・サービス網を強化することで、顧客にとってより良いサービスを迅速に提供できるようにする。

将来的に日本光電とアコマ社は、普及型麻酔器を共同で開発し、国内および振興国を中心とする海外での販売を目指す。また、日本光電と H+L 社は、周術期分野における技術提携、国内外における販売提携を強化する。

以上